

振付:ヤスミン・ゴデール(イスラエル)

Yasmeen Godder & Bloody Bench Players Present (Israel)

『ストロベリークリームと火薬』

Strawberry Cream and Gunpowder

主 催: NPO 法人アートネットワーク・ジャパン

共 催:  国際交流基金

特別協賛:  アサヒビール株式会社

協 賛:  SHI/EIDO /  トヨタ自動車株式会社 / **Panasonic**

助 成:  アサヒビール芸術文化財団

後 援: イスラエル大使館

 平成17年度文化庁国際芸術交流支援事業



© Tamar Lamm

2006年3月1日(水) - 4日(土)

にしすがも創造舎特設劇場

お問合せ

東京国際芸術祭(TIF)

TEL. 03-5961-5202/ FAX. 03-5961-5207

tif@anj.or.jp

はじめに - 東京国際芸術祭、中東シリーズについて

これまで東京国際芸術祭では、国際交流基金との共催のもと、2004年から継続して中東アラブ世界(クウェート、レバノン、パレスチナ、チュニジア)の演劇作品を世界に先駆けて紹介し、さらにカンパニーとの直接的な共同製作体制によって新しい作品を世に送り出してきました。これらの作品はその後世界の劇場や演劇祭へ招待され、中東地域の特殊な政治・社会状況を反映した批評性の強い作品として、世界の演劇界から高い評価を獲得してきました。この反響の大きさのため、当初3年を予定していた同シリーズはさらに2年間延長される予定です。

今回で第3回目となる中東シリーズは、東京国際芸術祭04における『アル・ハムレット・サミット』公演で日本の演劇界に衝撃を与えたスレイマン・アルバッサムが、新作『カリラ・ワ・ディムナ - 王子たちの鏡』を携えて再来日します。またイスラエルからは今世界で注目を集めている若手振付家ヤスミン・ゴデールが話題作『ストロベリークリームと火薬』を招聘。これまで2年連続で招聘してきたパレスチナの劇団アルカサバ・シアターが、占領下における不条理な現実を日常生活という視点から描いたのに対し、「壁」の向こう側イスラエルでは、アーティストはこの現実をどのように受け止め、作品として記述することが可能なのか。国際政治のさまざまな矛盾が凝縮され人々が翻弄され続ける「混迷の中東」において、アートは何をどのように表象し、社会の中に顕在化させることが可能なのか。私たちはイスラエルのアーティストの声にも耳を傾けることで、この大きな問いについて考え続けていきます。

TIF 中東シリーズの歩み

TIF04[クウェート]	『アル・ハムレット・サミット』【世界初演】スレイマン・アルバッサム・シアター
[レバノン]	『BIOKHRAPHIA-ビオハラフィア』ラビア・ムルエ&リナ・サーネー
[パレスチナ]	『アライブ・フロム・パレスチア - 占領下の物語』アルカサバ・シアター
TIF05[パレスチナ]	『壁 - 占領下の物語 II』【世界初演】アルカサバ・シアター
[チュニジア]	『ジュモン - 狂気』ファミリア・プロダクション

イスラエル・ダンス史上かつてない勇気ある問題作、待望の初来日

今回東京国際芸術祭2006で招聘する『ストロベリークリームと火薬』は、それまでイスラエルダンス界で語られることの少なかった極めて政治的・社会的な問題に正面から取り組み、イスラエル国内はもとより世界のダンス界に大きな衝撃と賞賛をもって迎えられた話題作です。

振付家のヤスミン・ゴデールは現在32歳、イスラエルを代表する若手振付家の一人。他者との関係性や人間の孤独、個人の内面の深遠を、濃密な身体のローリングプレーから描きこむ独特の作風で知られています。特に、最新作『ストロベリークリームと火薬』では、パレスチナ・イスラエル紛争を巡りメディアが作り出した暴力と悲劇のイメージを増幅、変容させていくことで、我々の生活にも潜むさまざまな暴力や関係性を暴き出します。紛争とメディアに対する個人の問題意識から、イスラエル社会の「病み」、そして世界のどこでも存在しうる問題へと開かる圧倒的な舞台は、見るものの内面に深く切り込んでいくことでしょう。

作品「ストロベリークリームと火薬」

無音の絶叫、フリーズした笑い、暴力的あきらめ、絶望と無関心・・・
イスラエルの現実を生きる若者たちの声なき声が、
身体のローリングプレーから舞台に静かに充満する。
わたしたちはこの舞台を前に、無傷でいることはできない。
「イスラエルダンス史上かつてない、勇気ある問題作」、待望の初来日。

極めてシンプルな舞台。検問所を思わせる交通遮断機が舞台袖に置かれているだけである。その空間をライブ演奏の低いギターのサウンドが静かに切り裂いていく。

7人のダンサーたちは、いずれもごく普通のイスラエルの若者、いや世界中どこにでもいそうな若者たちのようなルックスだ。しかしその身体と表情は、突然硬直し、脱力し、フリーズし、無造作に重なり合い、打ち捨てられる。無音の絶叫、フリーズした笑い、暴力的なあきらめ、絶望と無関心、侮蔑と愛撫・・・それらは私たちがテレビなどのメディアを通じていやがおうにも目にするイスラエルの「あの光景」 - テロ直後の現場、検問所で尋問される人々、作戦中の兵士たち - などを想起させずにはおかない。

腕を銃のように構えて相手の口に突き刺す男性。ひきつった顔のままフリーズする女性。無造作に持ち上げられては死体のように地面に寝かされる男性。その男性の「死体」になだれかかりすすり泣く女性・・・ダンサーたちは、この演劇ともダンスともつかぬローリングプレーを繰り返していく。そこではメディアが生み出した悲劇のイメージ、戦争と暴力のイメージが連鎖し、増幅し、変容していく過程で、強烈な問いかけとなって見るものを圧倒する・・・ダンスが語りうる表現のボーダーを押し広げる凄まじい舞台を前に、我々は決して傍観者でいることはできないだろう。



© Tamar Lamm

観るものの内面に深く切り込む圧倒的な問いかけ

ヤスミン・ゴデールはこの作品の創作にあたり、実際にメディアの中に存在する写真を選ぶことから作品づくりを始めたという。パレスチナ・イスラエル紛争の現場を捉えた写真をダンサーたちと共に選びとり、その写真から想起されるイメージ、状況、心理を身体で表現するワークショップを重ねていった。

既にメディア化され、クリシェと化した映像を過度に増幅し、微妙に変容させていくことでメディアの虚構を暴き、よりリアルなものを出現させるという手法は現代美術の分野では珍しい作業ではない。しかしそれをダンスという生のメディアを使ったこの作品は、イスラエル・パレスチナという特殊な状況を越えて、我々の生活にも潜む暴力や関係性の問題を暴き出し、圧倒的な問いかけとって観るものの内面に深く切り込んでくることだろう。

イスラエル社会の声なき声が充満する舞台

これまでイスラエルのダンス界では、イスラエル建国以来続く戦争という現実ほとんど描かれてこなかったという。しかし、ヤスミン・ゴデールはこの現実をまず一個人の問題として真剣に見つめ直すことから作品づくりを始めた。

ホロコーストによって地球上からの絶滅を迫られ、悲願の建国を果たしてなお周辺のアラブ諸国から存在を否定されてきたイスラエル。建国以来やむことのない周辺諸国との戦争やテロ攻撃の脅威の中で、男性には3年、女性には21ヶ月の徴兵義務が課され、高校を卒業したばかりの若者が紛争の最前線で銃を使う。国民の多くが軍事産業やセキュリティ産業に従事しており、度重なる紛争によって観光産業は衰退、失業率は高まる一方…そこでは、こういった現実を前に生きることを強いられた人々の声なき声が、1時間20分の舞台に充満し、観る者の心を激しく揺さぶる。そこにはもはやイスラエルもパレスチナもない。そこには受け入れがたい現実を前に呆然とする人々の深い嘆き、そして疲労と諦めが入り混じった絶望的な痛みが、ダンサーたちの全身から強烈に発せられていく。

ヤスミン・ゴデール(振付家)のことは

人々はマスメディアが提供するイメージをとおして多くの事象を理解しています。しかし、私が表現しようとしていたのは、メディアから送り出される情報をとおして個々が現実を認知していること、さらに個人によってもその見方違うということなのです。例えば戦争の写真をみれば、強さ、弱さ、攻撃軍、犠牲者が認知されるのですが、ポルノ性を感じたり、もっと個人的な見方をすることも可能でしょう。結局、私の作品のみどころは、現実の多面性をいかに表現しているかというところにあるのだと思います。

- 2005年12月5日 テルアビブでのインタビューより

Bloody Bench Players – 「いかした / 血まみれの補欠たち」

『ストロベリークリームと火薬』の英語での正式名称は、Yasmeen Godder and Bloody Bench Players Present : Strawberry Cream and Gunpowder。この「Bloody Bench Players」 - いかした補欠、あるいは血まみれの補欠たち - は、本作品の創作に関わったダンサーやスタッフたちのユニット名である。ドラマトルクとして、これまでもヤスミン・ゴデールとの芸術面でのコラボレーションを図ってきた演劇人イツィク・ジュリが参加。さらにオリジナル・サウンドの作曲とライブ演奏のアヴィ・バレリ、照明デザイナーのジャッキー・シュメシュなど、イスラエルの舞台芸術界の第一線で活躍するクリエイターが集結。振付家、ドラマトルク、ダンサー、スタッフそれぞれがイスラエル社会に対する問題意識を持ち寄り、創作プロセスを深く共有することで本作品は誕生した。

- プレス評

『ストロベリークリームと火薬』は恐らくいかなるクリシェにも陥らず政治的状況を描いた、イスラエルで最初のダンス作品であろう。(中略)ゴデールはイスラエルダンスの感性とテーマの限界、さらに地理的な境界線をも押し広げる。

Gilad Reich, Globes

観客は、この舞台を前に、無傷でいることはできない。

熱狂と嫌悪感、憐れみと無関心—アンヴィヴァレントな感情が戦場の映像によって喚起される。

(中略)これはイスラエルのダンス史上かつてない、勇気ある、凄まじい作品である。

Gabi Aldor, Ha'ir Weekly

この作品は今年最もタフで魅力ある、最も徹底的で暴力的なショーとして記憶されるだろう。

Jacque Farber, Kol Ha'ir

『ストロベリークリームと火薬』 主な海外公演履歴

2004年	11月	世界初演 - The Lab (エルサレム、イスラエル)
2005年	2月	ヘッベル・シアター(ベルリン、ドイツ)
	4月	ドイツ国立劇場 (ワイマール、ドイツ)
	4月	デュッセルドルフ・タンツハウスnrw (デュッセルドルフ、ドイツ)
	6月	ウゼスダンスフェスティバル(ウゼス、フランス)
	10月	ブダペスト秋の芸術祭(ブダペスト、ハンガリー)
	11月	ザ・ブレイス(ロンドン、UK)
2006年	2月	メゾン・ド・ラ・ダンス(リヨン、フランス)
	2月	CND 国立ダンスセンター(パリ、フランス)
	3月	東京国際芸術祭 (東京、日本)
		以後も世界各地の劇場・フェスティバルでの公演が決定している

振付家:ヤスミン・ゴデール Yasmeen Goder



1973 年イスラエル・エルサレム生まれ。現在イスラエルを拠点に活動し、世界のダンス界から注目を集める若手振付家。2001 年ベッシー賞受賞。

他者との関係性や人間の孤独、個人の内面の深遠を、濃密な身体のローリングプレーから描きこむ独特の作風で知られている。この、個人的な問題意識を社会的な身体性の中で再定義するダンスは、時にグロテスクな美しさをたたえ、見るものの内面に深く切り込む。

11 歳で家族とともに渡米、ニューヨークでダンスを学ぶ。ニューヨーク大学 Tisch School of the Arts 卒業後、本格的にフリーランスの振付家としての活動を開始。キッチンやDTWを含む多くの劇場で作品を創作・発表。

2001 年にはニューヨークのDTW、キッチン、エルサレムの The Lab による共同制作作品で『I feel Funny Today』を発表、ダンス界で最も名誉ある賞のひとつ、ニューヨークのベッシー賞を受賞。

99 年よりテルアビブに拠点を移したゴデールは、イスラエルダンスの見本市「Curtain-UP, International Exposure Festival」のコミッションにより、テルアビブにあるダンスの殿堂、スザンネ・デラール・ダンスセンターで 5 年連続新作を発表。『I Feel Funny Today』(2000)、『Hall』(2001)、『Sudden Birds』(2002)、『Two Playful Pink』(2003)、そして最新作の『ストロベリークリームと火薬』(2004)、これらの作品は、国内はもとより、海外のダンス関係者からも高い評価を獲得。

2001 年と 2003 年には、イスラエル文化省より若手振付家賞を受賞するなど、イスラエルの若手振付家として不動の地位を確立している。

とくに 2004 年 12 月に初演された最新作『ストロベリークリームと火薬』は、それまでイスラエル・ダンスシーンで語られることなかったイスラエル社会の現実を正面から扱い、世界のダンス界に大きな衝撃と賞賛をもって迎えられた。同作品は 05 年から 06 年にかけて、世界の重要な劇場やフェスティバルへのツアーを行っている。また、06 年にはフランスの国立ダンスセンターやドイツのヘッベル・シアターとの共同制作による新作を予定しているなど、今最も世界の注目を集める若手振付家の一人であることは間違いない。

ヤスミン・ゴデール公式ウェブサイト
<http://yasmeengodder.com>

公演概要

公演タイトル: 『ストロベリークリームと火薬』

振付:	Yasmeen Godder	ヤスミン・ゴデール
ドラマツルグ:	Itzik Giuli	イツイク・ジュリ
作曲・ライブ演奏:	Avi Belleli	アヴィ・バレリ
空間デザイン:	Gal Weinstein	ガル・ベインシュテイン
照明:	Jackie Shemesh	ジャッキー・シメシュ
衣装:	Alon Rodeh	アロン・ロデ
音響:	Cohen Oren	コーヘン・オレン
振付助手:	Inbal Yacobi	インバル・ヤコヴィ
ダンサー:	Yasmeen Godder	ヤスミン・ゴデール
	Iris Erez	イリス・エレズ
	Inbal Nemirovsky	インバル・ネミロフスキー
	Eran Shani	エラン・シャニ
	Jeremy Bernheim	ジェレミー・ベルンハイム
	Maya Weinberg	マーヤ・バインヴェルグ
	Arkadi Zaides	アルカディ・ザイデス

日本側スタッフ

舞台監督:	小林裕二
照明:	小笠原純(ファクター)
音響:	相川晶(サウンド・ウィーズ)
制作:	相馬千秋(NPO 法人アートネットワーク・ジャパン)

期日: 2005年3月1日(水)～4日(土)
 公演数: 4回
 会場: にしがも創造舎 特設劇場
 上演時間: 1時間20分

公演日: 3月1日(水)～3月4日(土)

3月1日 (水)	3月2日 (木)	3月3日 (金)	3月4日 (土)
			17:00
19:00	19:00	19:00	

終演後、ポスト・パフォーマンス・トークあり 3日(金)ゲスト:高嶺格(美術家)
 当日券発売・整理券発行は開演の1時間前 / 開場は開演の30分前

会 場： にしすがも創造舎特設劇場

チケット発売： 1月11日(水)

料 金： [全席自由・日時指定・税込] 一般 4,000 円 学生席 2,000 席(当日要学生証提示)

チケット取扱： チケットぴあ : 0570-02-9999/9966(P コード 366-204) <http://t.pia.co.jp/>

e + (イープラス) : <http://eee.eplus.co.jp> (パソコン & 携帯)

東京国際芸術祭 (TIF) : 03-5961-5202 <http://tif.anj.or.jp>

お問い合わせ： 東京国際芸術祭 (TIF) TEL 03-5961-5202 tif@anj.or.jp <http://tif.anj.or.jp>